



防災教育の日

4月27日
～布田小体育館～



体育館入口に設置された災害用特設外線電話

ゴールデンウィーク直前の四月二十七日、令和六年度の防災教育の日の訓練が実施された。コロナ禍による二年間の中止後、二〇二二年から再開された防災教育の日だが、今年度は目的を災害発生時の「円滑な初期対応」の実現として、市職員と地域住民との協働訓練を実施した。

第39回 布田地区盆踊り大会

7/13(土) 午後5:30～午後8:00
7/14(日) 午後5:30～午後8:00

会場：布田小学校校庭

地域周辺に貼られた開催ポスター

梅雨も終盤に差し掛かった夏休み前の三連休、七月十三日と十四日に布田小学校一杯に地域の人たちが年を問わず参集した。健全育成会長の矢幡秀治さんを実行委員長に、布田小学校、布田小PTA、開放委員会(布田小の体育館や校庭などを活用している各スポーツクラブ/同好会など)の協力で、五年ぶりに「夏の布田地区盆踊り大会」が開催された。コロナ禍のため二〇二〇年・二〇二一年は中止、二二年は秋祭りとして子どもたちのゲームを中心に小規模に実施、二三年には校庭も使って食べ物の売店も設営したのだが、今年度は伝統行事の復活を望む声に呼応して、盆踊り大会の開催となったのだ。

午後五時半の開始を待ちかねたように、校庭への入口には早くも子どもたちの列ができて始めた。女の子は浴衣姿も多い。体育館前庭は全面駐輪場となり、おやじネットメンバーが交通整理係だ。校庭には大型のテントが十五以上も張られ、それぞれ千本つりなどのゲーム、ビール・焼鳥・かき氷などの売店が開店準備に余念がない。校庭中央には五十センチほどの高さの舞台がしつらえられ、地域の住民や企業から寄贈された提灯が飾られ、盆踊りの準備も万全だ。

五時半の開場と同時に各テント前にはあつという間に行列ができる。子どもたちの人気はゲームコーナー



校庭ステージで音楽に合わせて盛り上がる子どもたち



“調布 the 盆 dance”の踊りで会場に華を添える

復活 盆踊り大会

5年ぶり真夏の開催

ハッピーうさこキャラクター紹介



当地区協が発足したときに、布田小学校で飼っていたうさぎをイメージシンボルにしました。

具体的には市職員には各々担当の避難所が割り当てられ、更に各避難所の近隣に住んでいる市職員には初動要員の役割が与えられている。災害が発生した時に市役所が開いていけば、各避難所担当の市職員が駆け付けて開設に当たり、市役所が閉じている夜間・休日であれば初動要員が避難

布田小地区ハッピータウン協議会
会長 依田 耕児

品川通と甲州街道間の道路整備の工事が進行中です。歩道は無電柱下され植栽帯を含め幅員二十・五メートルの新しい道路が完備されるのに伴い、品川通り布田4丁目交差点も東側に移設されます。

その交差点から京王線東口改札(飯野病院横)に通じる市道は大変狭く歩行者と車両また車両同士のすれ違い時に大変危険な状況が続いていました。特に雨天時の水たまりなどにも閉口される歩行者も多かったのではないのでしょうか。

それら課題がすべて解決される新しい道路の完成が待ち遠しく感じますが、同時にその交差点が移設されることの新しい課題も地域の住民からいくつか指摘されています。

当地区協ではそれら課題の対応方法も検討し、歩行者が安全に通行ができるよう協議を重ねていきたいと思っております。

皆さんが愛するこの地域の願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願ひ申し上げます。

2024年 新運営委員さん (敬称略)

①趣味 ②好きなことば ③ひとこと

堤 多佳子
つつみたかこ
～布田小PTA～

①: 動物園・水族館に行くこと ②: 質実剛健 ③: 布田小地区に住んで3年目です。学校のこと、地域のことも知らないことが多く、日々学ぶことばかりです。1年間よろしくおねがいします。

永谷 誠
ながやまこと
～布田南部自治会～

①: ウォーキング、健康太極拳 ②: どうにかなるさ、試行錯誤 ③: 新自治会長として地域の安心安全な日常と明るい地域生活に向けた活動をめざします。調布在住43年目で、この4月から朝の通学時のみまもりボランティアをしています。3ヶ月経ち、新一年生が日々成長していますね!

高畠有美
たかばたけゆみ
～調布市社会福祉協議会～

①: 読書、ハイキング ②: 千里の道も一歩から ③: 地域支え合い推進員として、布田小地域の担当になりました! 皆様のやってみたくて、やりたい方法でお手伝いするお仕事です。健康づくり、居場所づくりなどに興味のある方、またどこに相談すればいいの? という内容でも何でもご相談ください!

益子 昌弘
ますこまさひろ
～染地児童館～

①: サッカー(最近は観る専門) ②: 「諦めたら、そこで試合終了です」(スラムダンク安西先生の言葉) ③: 4月より染地児童館長となりました。今日は何して遊ぼうかな? と思った時は是非、児童館に遊びに来てね。

山本 まゆみ
やまもとまゆみ
～染地かもめ会～

①: 隙間時間の楽しみは読書 ②: 好奇心 ③: ここ6年間で3回目の町会班長。少しでも動けるうちにやることにしました。時間貧乏の50余年。町会の課題は高齢化、単身化、会員と非会員の交流でしょうか。

西原 幸子
にしはらさちこ
～布田小コミュニティスクール～

①: 猫と遊ぶこと ②: 雨だれ石を穿つ ③: フルタイムで働きながら子育て中です。布田地域は人情が温かい地域だと思います。布田地域の皆さまには本当に感謝の言葉しかありません。地域の皆さんが大好きです。

野澤 涼平
のざわりょうへい
～調布市協働推進課～

①: 食べること、飲むこと ②: 努力は報われる ③: 地域の皆さんから布田小地区のことをたくさん学べたらうれしいです。少しでも布田小地区ハッピータウン協議会の力になれるよう頑張ります。

運営委員募集中!

- ★年6回の運営委員会
- ★防災教育の日 避難所訓練
- ★地域の安全安心活動

お近くの上記運営委員にお尋ねください

布田小地区ハッピータウン協議会
ホームページ
<https://happy-usako.jp>
スマホ対応で見やすくなりました

はっぴーなきずな

布田小健全育成ソフトボールチームは、1年生から6年生まで15名が所属しています。調布市親善大会などで優勝を含め優秀な成績を収めています。毎週土日の練習の成果、監督やコーチの優しく熱心な指導の賜物です。(健全育成 矢幡秀治)

酷暑の中、自宅訪問による相談対応を積極的に行っているため、私は夏バテしないよう塩飴を大量に買い込みました。高齢者の熱中症・脱水は命に関わります。エアコンを使いこまめに水分補給して、夏を乗り切りましょう!(ときわぎ国領 小嶋泰之)

コラム 地域ケア会議に参加して

広報担当 藤田秀雄

地域包括支援センターと聞いてピンと来る方は、どのくらい居られるのだろうか。調布市全体の高齢化率（65歳以上の高齢者が人口に占める割合）は約2年前のデータで21.7%で増加傾向とのこと。同じデータによると、当地区協地域内の町丁目間でも10%程度の差があるようだ。ただそれは統計上のこと、たとえ一緒に住んでいなくても65歳以上の高齢者が親戚・知り合いに一人もいないという世帯は極めてまれではないだろうか。それならば、高齢者自身とその家族（時にはご近所も）のための総合相談窓口として、地域包括支援センターという名称を記憶にとどめておくことをお願いしたい。

この地域を担当している地域包括支援センターは「ときわぎ国領」という愛称名で呼ばれており、当紙前々号の地域の活躍人でご紹介した小嶋さんは、ときわぎ国領のスタッフのお一人だ。そのときわぎ国領が主催する今年度第1回の地域ケア会議に参加させて頂いたのは、事例検討がテーマにあげられていたから。筆者自

身、高齢者も後期と呼ばれる年齢に数年前に到達し、いつケアを受ける側になるかも知れないので、その立場から事例を聞いて見たいと思ったのだ。

会場は染地地域福祉センター、大広間のような舞台付きの和室に約50名強の参加者が集り、7-8人ずつの7グループに分かれ、ときわぎ国領スタッフによ

る事例の説明の後グループワークに入った。筆者のグループ・メンバーは7人。特別養護老人ホームでケアマネをされている方、マンションの管理組合で役員をされている方、住宅団地の広報協力員の方、介護支援事業のケアマネ、民生委員、ケアマネージャー、それに筆者というケア提供側の専門職とケア受け側の地域住



民とが上手くミックスしたグループだった。

事例は二つ、身寄りのない92歳の独居男性と支援を拒否する77歳独居女性について、それぞれ実際に担当されたときわぎ国領の職員の説明の後、グループ検討を行い、各グループに一人ずつ配置された職員によるまとめの発表となる。具体的な検討内容については触れないが、興味深かったのはケアマネージャーや民生委員のメンバーからは、豊富な経験に基づいた実践的対応策などが出されるのに対して、筆者を含めた地域住民は身近の類似事例になぞらえて、ケアを受ける側・提供する側双方に対する同情

や反発、あるいは現状への不満などを中心に発言されたことだ。

これでは議論のすれ違い？会議終了後に振り返って、はたと思いがたつたのは、こういった立場の違う参加者間での見方の相違・対応の違いをお互いに実感することこそ、地域ケア会議の真の目的なのだろうと。改めて参加者募集のドラを見ると、地域ケア会議の目的として、「地域住民と専門職の関係づくり」というある意味漠然とした言葉で語られている。会議の結果、新しい仕組みや制度にまで発展するような、

社会的資源の構築に繋がることもあり得ないことでは無いだろうが、地域住民と専門職とがケアにまつわる共通のテーマで意見をぶつけ合い、相互に立場の違いを再認識すると同時に、相手の視点からケアを見てみる経験は、専門職にも地域住民にもプラスになる。そういった人達が増えて行くと草の根的な社会資源になるな、と少々強引な解釈。

ときわぎ国領が主催する地域ケア会議は年3回行われているが、体力測定会、10の筋力トレーニングなど、高齢者ケアに関連するイベントは他にも行われて

いる。色々な機会にケア提供側の専門職と地域住民とのコミュニケーションを深めて行けば、自ずと有効な社会資源が構築されるのではなかろうか。

専門職の方々も、業務として接触する高齢者・関係者以外の地域住民との対話の機会を望んでおられるとお聞きした。

ときわぎ国領からの季刊「みまもっと便り」、その他地域の情報は当地区協のホームページに掲載しています。（検索「布田小地区ハッピータウン協議会」また

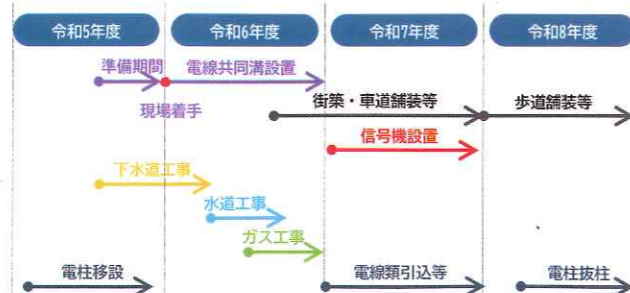
品川通り布田4丁目交差点が東方面に移設

されます。概要は右のQRコードから調布市都市整備部街づくり事業課の掲載の資料をご参照ください。



地区協では、当移設工事の進捗を見ながら完成後の課題などを話し合っていきたいと考えています

- 電線共同溝工事
- 道路築造工事
- 信号機工事
- 下水道工事
- 水道工事
- ガス工事
- 電線類工事



★地域の活躍人はお休みします、次号（25号）をお楽しみに！



ナリ、大人はやはりビールや焼鳥の列が長い。矢幡実行委員長の五年ぶり開催を喜ぶ開会宣言、校長先生や来賓の挨拶が進む中、校庭では久しぶりの再会を喜ぶ声があちらこちらから聞こえて来た。

高校生だという二人の女の子は布田小卒業生、在校時の盆踊り大会が懐かしくてやっていた。ご両親たちは来られないの？と尋ねたところ、「お父さんはおやじネットで駐輪場の整理してます」とのこと。遊びに来るのも迎えるのも地域住民、まさに地域の盆踊り大会だ。

小さなお子さん二人を連れてたご家族、アイスクリームを舐めている上のお子さんは保育園の年少組。「いざれこの子達も布田小に入學するの、今の内から見ておこうかな」と下のお子さんを抱っこして、時折雨粒が落ちてくる中で大変そうだけど楽しそう。

布田小卒業生でプロの尺八奏者風間禪寿（かざまぜんじゅ）さんと、共演者の笠原道樹（かさほらどうき）さんによる尺八演奏の後、いよいよ六時半から盆踊りが始まった。今にも雨になりそうな二日間だったが、両日共に盆踊り大会を実施することができ、それぞれ延べ千人ほどの来場者に満面の笑みを配って無事終了した

（文・藤田秀雄）



耐寒用アルミ箔のシート

所開設を行う仕組みだ。もちろん現実的には、この仕組みが上手く機能するケースばかりではないかも知れないが、基本となる考え方として地域住民も理解しておくことが重要だ。そうした観点から、我々地区協メンバーも市職員と一緒に訓練を実施した。

実際の訓練は、布田小校門の開け方や体育館解錠の手順など、例年通りのメニューで行われ、手順書の記述が分かりにくいなどいくつかの改善点が見つかるのも例年通り。体育館内部には、児童引取り訓練で来校した保護者と生徒に避難所を模擬体験してもらうため、避難スペースや簡易ベッド、携帯トイレなどの設置を行うのも訓練の一環だ。

防災教育の日の約一カ月前、台湾東部で震度六強の地震が発生した。この時のニュースで話題になったのが、体育館のような板張りの空間に整然と並べられたテントの列。プライベート空間の確保と共に地震発生後短時間で多数のテントを設置してし

防災教育の日

梅雨入りが記録的に遅れていた東京にも、遂に梅雨入り十三日、多摩川七丁目の河川敷で多摩川地域自治会牧場と題して、ポニーとふれあう会が開催された。主催は自治会連合会、当地区協や布田南部自治会を含め近隣の団体が参加協力し、桜丘睦会会長の門下良男さんがリーダーを務め

多摩川地域自治会牧場

ポニーとふれあう会



屋内外で個別空間を作るテント

まう機動性の高さから、日本の避難所の環境基準は見直すべきではないか、といったコメントが報道やSNSで取り上げられていた。

それに対応した訳ではないが、簡易テントも一基体育館に設置した。キャンプ用のテント同様、骨組みのばねを利用して簡単に立ち上げることが可能であり、また屋内での使用が前提なので、出入口



当日は朝から降ったり止んだりという、まさに梅雨らしい天候。少雨決行とは言え開催が危ぶまれたが、門下良男の実施決定の下、プログラムを提供して下さるハーモニイセンター（公益財団法人）さんのトラックと各参加団体からのサポート要員が、電通大グラウンド南の河川敷に集

（文・藤田秀雄）



参加した皆さんとポニーたち

合した。開始時刻の十時半頃は、傘をささないで濡れてしまうほどの雨降り、参加を予定していた方たちもきつと空を見上げながら「やるのかなあ、どうかなあ」とためらわれていたのだろう。出足は良かったものの、五頭の馬の名前や性格の紹介、ポニーの写真撮影を始めるうちに雨は小降りになり、薄日までさしかめた。するとそれに誘われたかのように来場者は増え始め、乗馬コーナーが始まった頃には順番待ちの行列ができてようになった。

午前中の乗馬コーナーでは五十一名（未就学児童と保護者の二人騎乗を含む）が参加し、再び雨が降り出した昼休憩をはさんで、午後の乗馬コーナーには八十一名が集まった。梅雨の雨雲の下でのポニーとふれあう会だったが、乗馬コーナーの時間には計ったように雨が止むという幸運に恵まれて、多摩川河川敷に子供たちの歓声が響き渡った。